サンゴ礁の岩でできた海岸に生える植物

海の近くにある荒木中里遊歩道を歩くと、海岸から陸に向かって、植物が背丈の小さいものから大きいものに変わっていくことに気づきます。さらに、同じ植物でも海側のものほど小さく、陸に向かうに従って大きくなっていきます。

このような連続的な植物の変化を荒木中里遊歩道に沿っておよそ長さ2km、幅 100m の範囲で見ることができます。

このように海岸からの距離で、植物の種類や育ち方に変化があるのはどうしてでしょうか？

海からの潮風の影響も大きいですが、別の理由として、喜界島の海岸が、最近（最近といってもかなり昔の話ですが・・・）持ち上がってできたサンゴの岩でできていることが挙げられます。できたばかりの岩は、固くて土が全然できないので植物は育たないからです。

しかし、持ち上がった回数は1度ではありませんでした。だいたい 1,000 年から 2,000 年おきに何回か持ち上がっています。そのため、陸側の岩ほど古いため、少しずつもろくなり土に変わっていきます。土がある場所では、植物も大きく育つようになっていきます。

このことが、植物が陸側ほど大きいという、ひとつの理由のようです。